

資料1-2

## 自己評価(一次評価)について

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月16日

協議会名： 四日市市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>【補助対象となる事業者名等の名称を記載】</p>	<p>【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】</p>	<p>【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】</p>	<p>A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】</p>	<p>A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】</p>	<p>【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載</p>
<p>三重交通株式会社</p>	<p>こにゅうどうくんライナー(1系統) 県立総合医療センター～小山田病院</p>	<p>【評価対象期間における前回の評価結果を受けての対応状況】 ・利用者利便の向上や利用促進に係る各種イベント・取組が、関係者との連携・共創の下、実施されることを期待する。 →利用促進イベント「こにゅうどうくんライナーで健康&amp;お買い物ツアー」を昨年度から引き続き、令和7年3月14日に実施した。イベントでは商業施設内で使える割引券を配布し、お買い物を楽しんでいただきながら、健康体操を実施した。</p>	<p>A ・運行は計画どおりに実施した。</p>	<p>B ●1日あたりの利用者数 【目標】24.5人以上 【実績】24.8人 【対目標値】101% ・目標達成できた。  ●収支率 【目標】7.0%以上 【実績】6.3% 【対目標値】90% ・目標達成できなかった。  目標利用者数は達成したものの、物価上昇等の影響で、経常経費が増加しており、収支率は低下した。</p>	<p>・利用促進イベントを通じて判明した課題や改善点を反映し、1日ではなく一定期間での利用促進策を実施することで、より多くの人を対象に、自身の都合に合わせて利用いただけるような施策を実施する。 ・新たにこにゅうどうくんライナーの利用促進策を検討するために、ヒアリング等での情報収集を行う。 ・こにゅうどうくんライナーの沿線住民の方々に向けて、毎年回覧による広報活動を行い、「バスを利用する＝健康である証」という認識の醸成や、運転免許返納割引や沿線商業施設のお得な情報を伝えることで、利用を促す。</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月16日

協議会名:	四日市市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>・四日市市では、輸送力や定時性に優れる鉄道網を維持するとともに、バスやタクシー等の公共交通が相互に連携し、都市機能が集積する中心市街地を中心とした効率的な交通ネットワークの構築を目指している。</p> <p>・四日市平田線が近鉄四日市駅と鈴鹿市を南北に結ぶ幹線であり、イオンタウン四日市泊(乗り継ぎ拠点)で接続することにゆうどうくんライナーは、市南西部の住民の中心市街地、鈴鹿市方面へのアクセス手段を確保するため不可欠である。</p> <p>四日市市都市総合交通戦略及び四日市市地域公共交通計画に掲げる取り組みの方向に基づき、引き続き持続可能な魅力あるまちづくりに取り組む。</p> <p>【取り組みの方向(戦略)】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①自由に移動し交流できる公共交通体系づくり</li> <li>②円滑な交通を支える道づくり</li> <li>③まちなかの賑わいづくり</li> <li>④市民・公共交通事業者・行政の連携づくり</li> </ol>

中運交企第163号  
令和7年3月27日

四日市市地域公共交通活性化協議会  
会長 伊藤 勝美 殿

中部運輸局長  
(公印省略)

令和5・6年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について(通知)

日頃より国土交通行政にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、先般報告された標記事業にかかる一次評価について、これを基に二次評価を行ったため、別紙のとおり通知します。

なお、二次評価結果は協議会等において共有するとともに、次年度以降の計画等に反映いただくようお願いいたします。

【問合せ先】  
中部運輸局交通政策部 交通企画課  
TEL:052-952-8006

自治体・協議会名	四日市市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業	地域内フィーダー系統

## 二次評価結果

### 評価できる取組

- ・中央通り再編に係る整備事業や自動運転の実証事業などについて、新たな一大交通結節点・交通拠点としての機能を担えるよう、中央通り再編事業(令和9年度以降)の完了に向けて進捗していることを確認しました。
- ・こにゅうどうくんライナーに乗って健康体操や買い物等を楽しんでいただくツアーや運行事業者と連携したバスの乗り方教室などの開催、市広報への公共交通の紹介や利用促進を図るための特集ページの掲載など、様々な取組を通じて公共交通の認知度を上げ、利用啓発に努められていることを評価します。
- ・EVバスの導入に係る複数台に渡る支援のほか、運転免許証の自主返納者を対象に新たに交通系ICカードの交付を始めるなど、運輸部門の脱炭素化や公共交通への転換に積極的に取り組まれていることを評価します。

### 期待する取組

- ・次年度に実施予定の乗車いただいた方に沿線商業施設の割引券を提供する取組、次年度以降に予定されている商業施設への乗継拠点の整備など、利用者利便の向上や利用促進に係る各種イベント・取組が、幅広い世代に向けたアプローチとなるよう、関係者との連携・共創の下、実施されることを期待します。
- ・現在一部地区で実施されているデマンド交通の実証運行については、利用状況や利用者の声、効果などの分析・考察に努め、実装に関する判断を見据え、検討が進められることを期待します。
- ・中央通り再編というビッグプロジェクトの進捗に合わせ、モビリティマネジメントや市内・市外を結ぶ公共交通ネットワークのPRなどに継続的に取り組まれることを期待します。

## 利用状況

年月	小山田病院発	県立総合医療センター発	合計	1日あたりの乗車人員数
令和6年 10月	317	266	583	26.5
令和6年 11月	261	226	487	24.4
令和6年 12月	284	228	512	25.6
令和7年 1月	265	184	449	23.6
令和7年 2月	251	202	453	25.1
令和7年 3月	281	215	496	24.8
令和7年度 上半期	1,659	1,321	2,980	25.0
令和7年 4月	268	206	474	22.6
令和7年 5月	296	218	514	25.7
令和7年 6月	290	220	510	24.3
令和7年 7月	289	196	485	22.0
令和7年 8月	243	191	434	25.5
令和7年 9月	314	238	552	27.6
令和7年度 下半期	1,700	1,269	2,969	24.6
令和7年度 通年	3,359	2,590	5,949	24.8

## 収支状況

	経常収入 (円)	経常経費 (円)	収支率 (%)
令和3年度	1,093,948	14,244,104	7.7
令和4年度	989,515	14,750,608	6.7
令和5年度	1,064,249	15,378,344	6.9
令和6年度	1,110,949	15,918,097	7.0
令和7年度	1,095,443	17,391,014	6.3

## 利用促進イベント

### こにゅうどうくんライナーで健康&お買い物ツアー

こにゅうどうくんライナーに乗って、イオンタウン四日市泊に来ていただき、イオンタウン四日市泊内で理学療法士による健康体操を実施。また、施設内のマックスバリュで使用できるクーポンを配布し、お買い物を楽しんでいただく、ツアーを昨年度に引き続き、開催した。

〈実施日〉

令和7年3月14日

〈参加者〉

13名

〈クーポン券の満足度〉

